

声に出して、ゆっくり・ふつう・はやくの順に。言えたら □ にチェック。

1 生麦生米生卵

なまむぎ なまごめ なまたまご

口の動かし方の目安：「な・ま」が3回出てきます。「ま」は上下の唇を合わせる音なので、最初はゆっくり、唇を合わせてから開きます。

☐ ゆっくり ☐ ふつう ☐ はやく

2 かえるが かいた かえるの え

口の動かし方の目安：「か」は舌の奥を上あごに近づける音、「る」は舌先で上あごを軽くはじく音です。「かえる」を毎回はっきり。

☐ ゆっくり ☐ ふつう ☐ はやく

3 まるい まどから まめを まく

口の動かし方の目安：ま行は、どれも唇を合わせてから始まります。「ま」のたびに唇を閉じて開く動きをそろえます。

☐ ゆっくり ☐ ふつう ☐ はやく

4 たぬきが たいこを たたいて たのしい

口の動かし方の目安：「た」は舌先を上歯のうしろにつけて離す音です。「たぬき・たいこ・たたいて」で舌先の位置をそろえます。

☐ ゆっくり ☐ ふつう ☐ はやく

声に出して、ゆっくり・ふつう・はやくの順に。言えたら □ にチェック。

5 すいかの たねを すこし すてた

口の動かし方の目安：「す」は舌先を上歯のうしろに近づけ、すき間から息を出す音です。「す」で始まる語が3回出るので、息を出しすぎないように。

☐ ゆっくり ☐ ふつう ☐ はやく

6 ながい なわを なんども なげた

口の動かし方の目安：な行は、舌先を上歯のうしろにつけてから出します。「な」と「が」の切り替えは、ゆっくり確かめます。

☐ ゆっくり ☐ ふつう ☐ はやく

7 こいぬが こっそり こたつに こもる

口の動かし方の目安：「こっそり」の「っ」は、ひと拍ぶん止めてから「そ」を出します。止める長さを毎回そろえます。

☐ ゆっくり ☐ ふつう ☐ はやく

8 ちゃいろい ちいさい ちょうちょ

口の動かし方の目安：「ちゃ」「ちょ」は、ひと拍の音です。「ち・ちゃ・ちょ」の口の形の変わり目を、ゆっくり確かめます。

☐ ゆっくり ☐ ふつう ☐ はやく

声に出して、ゆっくり・ふつう・はやくの順に。言えたら □ にチェック。

9 はるのはなばたけ はなが はらはら

口の動かし方の目安：は行は、息を出す音です。「はな」が2回出るので、息を一気に使わず、少しずつ出します。

☐ ゆっくり ☐ ふつう ☐ はやく

10 ぱんを ぱくぱく ぱっと たべた

口の動かし方の目安：ぱ行は、唇を合わせてから、息で破裂させるように開く音です。「ぱ」のたびに唇を合わせます。

☐ ゆっくり ☐ ふつう ☐ はやく

11 さるが さかなを さがして さわぐ

口の動かし方の目安：「さ」は舌先を上歯のうしろに近づけて息を出す音。「さ」と「か」の切り替えを、ゆっくり確かめます。

☐ ゆっくり ☐ ふつう ☐ はやく

12 のりを のばして のこりを のせた

口の動かし方の目安：「の」と「り」が続きます。「り」は舌先で上あごを軽くはじく音です。「の」の次に舌先を素早く動かします。

☐ ゆっくり ☐ ふつう ☐ はやく

声に出して、ゆっくり・ふつう・はやくの順に。言えたら □ にチェック。

13 隣の客はよく柿食う客だ

となりの きゃくはよく かき かう きゃくだ

口の動かし方の目安：「きゃく」と「かき」が似ています。「きゃ」はひと拍の音、「か」は舌の奥を上あごに近づける音です。

☐ ゆっくり ☐ ふつう ☐ はやく

14 赤巻紙、青巻紙、黄巻紙

あかまきがみ あおまきがみ きまきがみ

口の動かし方の目安：「まきがみ」が3回続きます。「ま」は唇を合わせる音、「が」は舌の奥の音。色の名前の部分で一度区切ると言いやすくなります。

☐ ゆっくり ☐ ふつう ☐ はやく

15 東京特許許可局

とうきょう とつきよ きよかきよく

口の動かし方の目安：「きよ」が4回出ます。「とつきよ」の「っ」はひと拍止め、「きよ」はひと拍の音として、拍の長さをそろえます。

☐ ゆっくり ☐ ふつう ☐ はやく

16 武具馬具、武具馬具、三武具馬具、 合わせて武具馬具六武具馬具

ぶぐばぐ ぶぐばぐ みぶぐばぐ あわせて ぶぐばぐ むぶぐばぐ

口の動かし方の目安：「ぶぐ」「ばぐ」は唇を合わせる「ぶ」「ば」と、舌の奥の「ぐ」の組み合わせです。読点の所で息つぎをして、区切って言います。

☐ ゆっくり ☐ ふつう ☐ はやく

17 菊栗、菊栗、三菊栗、合わせて菊栗六菊栗

きくくり きくくり みきくくり あわせて きくくり むきくくり

口の動かし方の目安：「きくくり」は舌の奥の音「き・く・く」と「り」が続きます。「く」の次の「り」は、舌尖を素早く動かします。

☐ ゆっくり ☐ ふつう ☐ はやく

声に出して、ゆっくり・ふつう・はやくの順に。言えたら □ にチェック。

18 今日の急行は急に止まる

きょうの きゅうこうは きゅうにとまる

口の動かし方の目安：「きょ」「きゅ」はどちらもひと拍の音です。「きゅ」は唇を丸めて前に出すと言いやすくなります。

☐ ゆっくり ☐ ふつう ☐ はやく

19 古い切符を切って切り抜いた

ふるい きっぷを きって きりぬいた

口の動かし方の目安：「きっぷ」「きって」の「っ」は、ひと拍止める音です。止めたあとの「ぷ」「て」で、唇と舌先の位置が変わります。

☐ ゆっくり ☐ ふつう ☐ はやく

20 この竹竿は古い竹竿か新しい竹竿か

この たけざおは ふるい たけざおか あたらしい たけざおか

口の動かし方の目安：「たけざお」が3回出ます。「た」は舌先、「け」は舌の奥を使います。2つの音の間で舌を動かす距離が、いつも同じになるように。

☐ ゆっくり ☐ ふつう ☐ はやく

21 三月三日に桃の節句の桃を三つ飾る

さんがつ みっかにもものせつくのももを みつつ かざる

口の動かし方の目安：「みっか」「もも」「みつつ」と、唇を合わせる音が何度も出ます。「みっか」「せつく」「みつつ」の「っ」は、ひと拍止めます。

☐ ゆっくり ☐ ふつう ☐ はやく

22 雨上がりの屋根の雨だれを数えた

あめあがりの やねの あまだれを かぞえた

口の動かし方の目安：「あめ」と「あま」は「あ」のあとの唇の動きが同じです。「め」と「ま」を言い分けるときに、口の開きを意識します。

☐ ゆっくり ☐ ふつう ☐ はやく

声に出して、ゆっくり・ふつう・はやくの順に。言えたら □ にチェック。

23 冷えた麦茶を二杯お代わりした

ひえた むぎちゃを にはい おかわりした

口の動かし方の目安：「むぎちゃ」は、唇を合わせる「む」から、ひと拍の「ちゃ」へ続きます。「ちゃ」は舌先を上あごにつけて離します。

☐ ゆっくり ☐ ふつう ☐ はやく

24 歌い手が歌う歌は新しい歌だ

うたいてが うたう うたは あたらしい うただ

口の動かし方の目安：「うた」を何度も言います。「た」は舌先を上歯のうしろにつけて離す音です。「うたう」のように音がつながる所は、息を切らずに。

☐ ゆっくり ☐ ふつう ☐ はやく

25 お茶を注ぐ人がお茶を二杯注ぐ

おちゃを そそぐ ひとがおちゃを にはい そそぐ

口の動かし方の目安：「ちゃ」はひと拍、「そそぐ」は舌先を上歯のうしろに近づけて息を出す「そ」が続きます。「ちゃ」と「そ」の違いを意識します。

☐ ゆっくり ☐ ふつう ☐ はやく

26 箸を橋の端に置いた

はしを はしのはしに おいた

口の動かし方の目安：「はし」が3回出ます。同じ読みでも、箸・橋・端は声の高低の付き方が違うことがあります。意味を思い浮かべながら言うと区別しやすくなります。

☐ ゆっくり ☐ ふつう ☐ はやく

27 青いバラと赤いバラと白いバラ

あおいばらと あかいばらと しろいばら

口の動かし方の目安：「ばら」は、唇を合わせる「ば」と、舌先で上あごをはじく「ら」の組み合わせです。色の名前の頭が変わる所で、口の形を切り替えます。

☐ ゆっくり ☐ ふつう ☐ はやく

ふつう / 早口言葉 5個 / 文の字 20pt

声に出して、ゆっくり・ふつう・はやくの順に。言えたら □ にチェック。

28 坊主が屏風に上手に坊主の絵を描いた

ぼうずがびょうぶにじょうずにぼうずのえをかいだ

口の動かし方の目安：「ぼう」「びょう」「じょう」と、伸ばす音が続きます。「びょ」「じょ」はひと拍の音。伸ばす長さをそろえます。

☐ ゆっくり ☐ ふつう ☐ はやく

29 親も嘉兵衛、子も嘉兵衛、親嘉兵衛子嘉兵衛、 子嘉兵衛親嘉兵衛

おやも かへえ こも かへえ おやかへえ こかへえ こかへえ おやかへえ

口の動かし方の目安：「おや」と「こ」が入れ替わります。「かへえ」は毎回同じ音なので、変わる部分（おや・こ）だけを意識して、読点で区切ります。

☐ ゆっくり ☐ ふつう ☐ はやく

30 向こうの胡麻殻は荏の胡麻殻か真胡麻殻か、 あれこそ本の真胡麻殻

むこうの ごまがらは えの ごまがらか まごまがらか あれこそ ほんの まごまがら

口の動かし方の目安：「ごまがら」が4回出て、前に「え」「ま」が付いて変わります。「が」「か」を言い分けるときは、舌の奥の動きを確かめます。

☐ ゆっくり ☐ ふつう ☐ はやく

31 青竹茶筌でお茶ちゃと立ちゃ

あおだけちゃせんで おちゃちゃと たちゃ

口の動かし方の目安：「ちゃ」が4回出ます。「ちゃ」はひと拍の音なので、「ちゃせん」「おちゃちゃ」「たちゃ」で長さをそろえます。

☐ ゆっくり ☐ ふつう ☐ はやく

声に出して、ゆっくり・ふつう・はやくの順に。言えたら □ にチェック。

32 社内の照会書を昨日少し修正した

しゃないの しょうかいしょを きのう すこし しゅうせいした

口の動かし方の目安：「しゃ・しょ・しゅ」はひと拍の音が続きます。「し」の仲間のどの音も、舌先を上歯のうしろに近づけて息を出します。

☐ ゆっくり ☐ ふつう ☐ はやく

33 六百六十六匹の蛙が泳いだ

ろっぴゃく ろくじゅう ろっぴきの かえるが およいだ

口の動かし方の目安：数の読み方が途中で変わります。六百は「ろっぴゃく」、六十は「ろくじゅう」、六匹は「ろっぴき」。変わる所を先に確かめます。

☐ ゆっくり ☐ ふつう ☐ はやく

34 出張の手土産に茶筒と急須と茶碗

しゅっちょうの てみやげに ちゃづつと きゅうすと ちゃわん

口の動かし方の目安：「しゅっちょう」の「っ」はひと拍止めます。「ちゃ」「きゅう」と、ひと拍の音が並ぶので、口の形の切り替えを確かめます。

☐ ゆっくり ☐ ふつう ☐ はやく

35 魚屋で買った新鮮な鮭を少し生姜で煮た

さかなやで かった しんせん な さけを すこし しょうがで にた

口の動かし方の目安：「さ・し・す・しょ」と、さ行の音が何度も出ます。舌先の位置は近いまま、口の形だけが変わります。

☐ ゆっくり ☐ ふつう ☐ はやく

声に出して、ゆっくり・ふつう・はやくの順に。言えたら □ にチェック。

36 引き出しの引き手を引き抜くと引っかかる

ひきだしの ひきてを ひきぬくと ひっかかる

口の動かし方の目安：「ひき」が3回、「ひっ」が1回出ます。「ひ」は息を出す音、「き」は舌の奥を使う音です。「ひっかかる」の「っ」はひと拍止めます。

☐ ゆっくり ☐ ふつう ☐ はやく

37 手に取ったとたんに取っ手が取れた

てにとったとたんにとってがとれた

口の動かし方の目安：「て・と・た」は、舌先を上歯のうしろにつける音です。「とった」「とって」の「っ」でひと拍止めて、そのあとの音をはっきり。

☐ ゆっくり ☐ ふつう ☐ はやく

38 小さな小鳥が小さな小石を小さく蹴った

ちいさな ことりがちいさな こいしをちいさく けった

口の動かし方の目安：「ちいさ」が3回、「こ」で始まる語が2回出ます。「ち」は舌先、「こ」は舌の奥の音で、交互に動かします。

☐ ゆっくり ☐ ふつう ☐ はやく

39 早朝の草原の草を急いで刈る

そうちょうの そうげんの くさをいそいでかる

口の動かし方の目安：「そう」が2回、「くさ」「いそ」と、さ行の音が出ます。「そう」の伸ばす音は、毎回同じ長さにします。

☐ ゆっくり ☐ ふつう ☐ はやく

早口言葉 一覧表

なまえ

39個ぜんぶ

10 / 10

言えた早口言葉の □ にチェックを入れて使います。番号は練習の紙と同じです。

やさしい

- | | | |
|----|--------------------|--------------------------|
| 1 | 生麦生米生卵 | ☐ |
| 2 | かえるがかいた かえるの え | ☐ |
| 3 | まるい まどから まめを まく | ☐ |
| 4 | たぬきがたいこを たたいて たのしい | ☐ |
| 5 | すいかの たねを すこし すてた | ☐ |
| 6 | ながい なわを なんども なげた | ☐ |
| 7 | こいぬが こっそり こたつに こもる | ☐ |
| 8 | ちやいろい ちいさい ちょうちょ | ☐ |
| 9 | はるのはなばたけ はなが はらはら | ☐ |
| 10 | ばんを ぱくぱく ぱっと たべた | ☐ |
| 11 | さるが さかなを さがして さわぐ | ☐ |
| 12 | のりを のばして のこりを のせた | ☐ |

ふつう

- | | | |
|----|-------------------------------|--------------------------|
| 13 | 隣の客はよく柿食う客だ | ☐ |
| 14 | 赤巻紙、青巻紙、黄巻紙 | ☐ |
| 15 | 東京特許許可局 | ☐ |
| 16 | 武具馬具、武具馬具、三武具馬具、合わせて武具馬具六武具馬具 | ☐ |
| 17 | 菊栗、菊栗、三菊栗、合わせて菊栗六菊栗 | ☐ |
| 18 | 今日の急行は急に止まる | ☐ |
| 19 | 古い切符を切って切り抜いた | ☐ |
| 20 | この竹竿は古い竹竿か新しい竹竿か | ☐ |
| 21 | 三月三日に桃の節句の桃を三つ飾る | ☐ |
| 22 | 雨上がりの屋根の雨だれを数えた | ☐ |
| 23 | 冷えた麦茶を二杯お代わりした | ☐ |
| 24 | 歌い手が歌う歌は新しい歌だ | ☐ |
| 25 | お茶を注ぐ人がお茶を二杯注ぐ | ☐ |
| 26 | 箸を橋の端に置いた | ☐ |
| 27 | 青いバラと赤いバラと白いバラ | ☐ |

むずかしい

- | | | |
|----|--------------------------------|--------------------------|
| 28 | 坊主が屏風に上手に坊主の絵を描いた | ☐ |
| 29 | 親も嘉兵衛、子も嘉兵衛、親嘉兵衛子嘉兵衛、子嘉兵衛親嘉兵衛 | ☐ |
| 30 | 向こうの胡麻殻は荏の胡麻殻か真胡麻殻か、あれこそ本の真胡麻殻 | ☐ |
| 31 | 青竹茶筴でお茶ちゃと立ちや | ☐ |
| 32 | 社内の照会書を昨日少し修正した | ☐ |
| 33 | 六百六十六匹の蛙が泳いだ | ☐ |
| 34 | 出張の手土産に茶筒と急須と茶碗 | ☐ |
| 35 | 魚屋で買った新鮮な鮭を少し生姜で煮た | ☐ |
| 36 | 引き出しの引き手を引き抜くと引っかかる | ☐ |
| 37 | 手に取ったとたんに取っ手が取れた | ☐ |
| 38 | 小さな小鳥が小さな小石を小さく蹴った | ☐ |
| 39 | 早朝の草原の草を急いで刈る | ☐ |

漢字のよみは、練習の紙に書いてあります。 / 39個 / 文の字 10pt